

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式30問 (語句選択10問、正誤判定17問、年代整序 3問) 、記述式15問 計45問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数6題は昨年度と同じだが、設問数が2問減少して45問となった。解答形式は、語句選択問題が5問、年代整序問題が2問増加した。一方、正誤判定問題が4問、記述式題が5問減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

史料問題が大問6題のうち昨年度の1題から3題に増加した。大問VIが図版を用いた設問を含む文化史問題であることは、例年と変わらなかった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述式	原始・古代の文化・社会	文学部の大問Iは例年どおり原始からの出題で、全体的に平易な問題であり、早稲田大学文学部志望者であれば全問正解が望まれる。	易
II	語句選択 正誤判定 記述式	『小右記』と当該期の政治・文化 《史料》	問2のイは迷ったかもしれないが、頻出史料に関する平易な問題であり、史料中の「前の太政大臣」をヒントに誤文と判断できる。	易
III	語句選択 正誤判定 記述式 年代整序	戦国大名の分国法 《史料》	問3は、難。問4・問5・問6は、史料をよく読み、意味を理解し正解したい。	標準
IV	正誤判定 記述式 年代整序	西洋文化の流入 《史料》	問1は消去法で正解できる。全体的に平易な問題であり、早稲田大学志望者であれば全問正解が望まれる。	易
V	語句選択 正誤判定 記述式 年代整序	近現代の雄弁家の演説	全体的に平易な問題であり、早稲田大学志望者であれば全問正解が望まれる。	易
VI	語句選択 正誤判定 記述式	近世・近代絵画史 《図版》	問2は、やや難。問4は、難。問6は活躍した時期から判断したいが、エとオで迷ったかもしれないのでやや難。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

合格点を確保するには教科書を丹念に学習することが必要である。文学部の特徴として、大問VIでは例年難度の高い文化史が出題されるので、頻出の図版を含めた文化史対策が肝要である。また、正誤判定問題や記述問題の分量も多いので、過去問演習への取り組みや、基本的な歴史用語を正確に書く練習も怠らないようにしたい。